

試行結果の活用方針（案）

資料2-1

○今回の試行結果の活用方法について、ベンチマーキング導入の目的（H25.3月中間とりまとめより）に基づき、「データの公表」、「個別レポートのフィードバック」、「施策への活用方法等の検討」の3つが考えられる。

ベンチマーキング導入の目的（H25.3中間とりまとめより）

地方公共団体の自律的マネジメントの促進

- 国内外の他事業者との比較による**相対的な成果・課題の把握**
- 良好な取り組み（ベスト・プラクティス）**から学び、自らの**事業改善**に活用 等

企業との連携強化

- 地方公共団体の取り組みを通じた**間接的な評価向上**
- 地方公共団体の抱える**課題の把握**による**技術・サービスの開発促進** 等

国の施策充実

- 定量評価による国際的な視点も踏まえた**我が国の相対的な立場（成果・課題）の把握**
- 重点支援すべきグループ・自治体の把握、改善プロセスの共有、全国水平展開** 等

H25年度 試行結果の活用方法

個別レポートのフィードバック

- 指標毎の**全国平均値**や**グループ平均値**との**比較・分析結果**等を、**地方公共団体毎のレポート**として個別に**フィードバック**（→資料2-3）

データの公表

- 今回検討会の議論も踏まえ、今年度末に「**試行結果レポート（仮称）**」としてとりまとめ（→資料2-5）
 - ・原則として、各地方公共団体の**入力データ**や**指標値**は**一覧にて公表**
 - ・ただし、**指標選定における留意点**（妥当性、自律性、客観性、公平性、測定容易性）に基づき、その**適正性**について再評価した結果、**課題がある指標**については**非公表とする等**の措置を検討。（→資料2-2）
- ※ 公表にあたっては、参加自治体に事前確認する。

施策への活用方法等の検討

- データの分析方法や**施策への反映方法**等について検討（→資料2-4）